

リンクスの 事業再生現場

レポート 第42回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F
TEL: 028-634-5088
Mail: info@rincs.biz
URL: http://www.rincs.biz/

【アベノミクスと融資スタンス】

安倍政権発足から4か月、アベノミクス効果により、円高の是正、株高に始まり、実態経済でも高額商品の売上が好調なようです。

アベノミクスとは、大胆な金融政策、財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の3本柱から成り立っています。まず、大胆な金融政策として、日銀から金融緩和が打ち出されました。「お札をどんどん刷れば景気が良くなる」という乱暴な意見もありますが、日銀が行う金融緩和とは、長期国債等の買入れにより民間金融機関に供給する資金量を拡大させるものです。民間金融機関はその資金を融資という形で積極的に企業や個人に貸し出すことにより、市場に資金が供給されます。すなわち、市場への資金の供給は、個別には民間金融機関が関与しているのです。金融緩和とは、民間の資金需要増加と、金融機関の融資スタンスの積極化を期待しているものです。

では、企業サイドは、資金調達をどのように捉えているのでしょうか。極端に考えると二者に別れます。前者は、業績順調で常々金融機関から資金セールスを受けている先です。資金需要に対して金融機関間の金利競争が繰り広げられているような先は、従来と同じことが続いていくはずですが、言い換えれば、資金需要の増加には左程影響がありません。

後者は、財務内容他に何らかの問題を抱え、金融機関からの調達ハードルが高い先です。中小企業の多くの先は後者になると思います。保証

協会付融資しか受けられないという企業も含まれます。また、金融円滑化法を利用していた場合には、更に新規調達が困難です。今後、これらの企業に安定的に資金が供給されていけば、金融緩和策の効果は大きくなるはずですが、簡単にはいきそうにもありません。

企業活動をしていく上で、売上が増加すれば増加運転資金が必要になり、設備の入替にも多額の資金が必要ですが、金融円滑化法が施行されて以降、金融機関は、問題を抱える企業に対して、「新規融資は困難なので、返済を見直しましょう」という提案を続けてきました。勿論、その効果は大きかったのですが、新規調達が止まった企業は、現状、様々な面で不具合を起こしているケースが多いというのが実感です。

しかし、問題を抱えている企業すべてを同じスタンスで考えることは危険です。赤字が止まらずに未払金等が増加している場合には、金融機関が新規融資することは困難ですが、業績回復による前向きな資金需要に対しては、債務者区分やスコアリングシートに拘ることなく、リスクを計りながら検討すべきです。

決算書、特にバランスシートの問題は一朝一夕には解決できません。しかし、そういった中でも、資金調達が出来れば業績の回復の可能性が高い企業は数多く存在します。金融庁が金融機関に求めている「目利き能力」を発揮していく場面です。



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。